

天理岳・両神山行報告

【日時】 10月7日(日)

【天候】 晴れ

【行程】 日向大谷登山口→奈良尾峠→天理岳→天武将尾根→前東岳→両神山
両神山→富士見坂→七滝コース→日向大谷登山口→帰葉

【参加メンバー】 小俣 (CL)、飯田

【内容】



道の駅・両神温泉薬師の湯で前夜泊し、翌朝日の出前に日向大谷駐車場を目指して出発した。駐車場に到着するとガラガラでした。天気も急回復したし意外と駐車しているではとっていたけれど、いやいや全くの杞憂でした。腹ごしらえをし、夜明けとともに行動開始だ。

日向大谷登山口の階段を登ると道標が立っていて、人生の分かれ道じゃないが、右へ行けば道悪のバリルート、左へ行けば一般的な登山道。



奈良尾峠へ向けて歩を進めるけれども道標などあるわけもなく、トレースも薄いしちょっと歩きづらい。はっきりしない道に行くよりは急登の斜面を登りましょうと小俣 CL。分かりましたと返事はすれども、内心「えっ、マジっすか！」の僕。

いきなりエンジン全開だ。まるで沢登りの詰めみたいに木に掴まり、時に四つん這いになりながらひたすら斜面をかきまくり尾根を目指しました。いやあ、しんどかった。

尾根に出れば天理岳までは所々でアップダウンがあるものの比較的緩やかな尾根歩きが続く。トレースは薄いけれど踏み外すことはない。ただ、広く平らな場所に出たら地図とコンパスで方向を確認した。意外と間違いやすいからね。



天理岳の尾根は雑木林に覆われ眺望が利くところは少ない。けれどもその少ないビューポイントからの眺めは好天もあって素晴らしい贈り物でした。周辺の山々が青空によく映え、右手にはクライミングで有名な二子山が目に見え、その奥は上州の山々か。少し前までの悪天予報が嘘のように静謐で爽やかだ。



アップダウンを繰り返しながら無事天理岳に到着。頂上にはなぜかここに祠が祀ってあり、古くは景行天皇が白いイヌオオカミに先導され登頂したという伝説があることから、それと何やら関係があるのかもしれませんが。

天理岳から両神山へと続く天武将尾根から八丁尾根に出るまでが少々難儀でした。天理岳の頂上から迷いやすいとの情報から、GPS・地図・コンパスで方向を確認し、ピンクのテープを目標に前進しました。うっかり頂上から薄い踏み後を素直に辿ると、その先は崖っぶちで非常に危険。

「テープ、テープ」と呪文のように頭の中で唱え、キョロキョロ周りを見渡しながら、時に岩場を下降し、アップダウンを繰り返し、八丁尾根を目指す。道なき道を行くのがめっちゃくちゃ面白い！



きついアップダウンを繰り返しながらやっとの思いで八丁尾根に出ると、そこにはロープが張ってあり、遭難事故多発と書いてある看板が掛けてあった。さすがに八丁尾根からの下山はお勧めできません。

登山道に出れば後はお気楽極楽の山歩きだ。両神山の頂上に到着すると、天気の良さも手伝ってか、多くのハイカーで賑わっていました。天武将尾根では一人も会わなかったのにねえ。



頂上で紅葉を楽しんだ後は、滝の眺めと沢のせせらぎに癒されながら七滝コースを一気に下山。コースタイム約9時間の長い山行となりました。

記録：いいだ

